

令和8年度  
事業計画書

令和8年4月1日から  
令和9年3月31日まで

公益財団法人 立山カルデラ砂防博物館

## 1 基本方針

- (1) 「立山カルデラの自然と歴史」及び「砂防」の二つのテーマを、「知られざるもうひとつの立山」と位置付け、博物館活動を通して広く紹介する事業を積極的に展開する。
- (2) 立山砂防の世界文化遺産登録へ向けて博物館の視点から積極的な情報発信を行う。
- (3) 立山黒部アルペンルートの玄関口に立地することから、要望が多い立山の風土を紹介する展示等の事業を行う。

## 2 展示事業

### (1) 常設展示

立山や立山カルデラの自然と歴史及び砂防を体系的に展示・紹介する。団体客に対しては、学芸員等が来館目的に沿った解説を行う。

#### ①大型映像ホール

大型映像の投影 「タイムトラベル 常願寺川～川が語りかけるもの～」  
「立山カルデラ 大地のドラマ」「崩れ」

#### ②立山カルデラ展示室

立山カルデラや立山の自然と歴史を展示

##### ・県営砂防常設展示

世界文化遺産登録に向けて、「立山砂防区域平面図」複製展示や黎明期の富山の砂防についての映像を上映する展示コーナーを設置。

#### ③S A B O展示室

立山カルデラの砂防事業を展示

##### ・立山カルデラ等を天空から眺める立山カルデラ 360° VRシアターを設置。

#### ④立山の自然コーナー・インフォメーションコーナー

立山の特異な自然について、「上昇する山」「氷の山」など5つの観点からフィールドを訪ねる感覚で紹介。

### (2) 企画展、特別展

#### ① 特別展「雪の壁のひみつ」

4月15日（水）～6月28日（日）

春の立山の風物詩「雪の大谷・雪の壁」に隠された秘密を紹介する。

#### ② 特別展「ライチョウー天空の鳥ー」

4月15日（水）～5月31日（日）

富山雷鳥研究会が長年調査で撮影してきた生態写真 40 点に加え、標本や実際に使用されていた調査道具を紹介。

#### ③ 土砂災害防止月間特別展「防災グッズとハザードマップ」

6月13日（土）～7月12日（日）

土砂災害防止月間にあわせて防災グッズや富山県内のハザードマップを展示し、自然災害に対する備えを再確認する。

④ 直轄 100 年・県営 120 年記念企画展「立山カルデラの砂防」

7 月 18 日（土）～10 月 4 日（日）

かつて常願寺川は、立山カルデラから流出する土砂が原因で洪水を繰り返し「日本一の暴れ川」と呼ばれていた。人々の命と生活を守るため、明治 39 年には立山カルデラで砂防工事がはじまり今年で 120 年を迎える。本展示では立山カルデラで行われてきた砂防事業について、その歴史を振り返る機会とする。

⑤ 特別展「立山から南極へー南極観測 70 年の始まりと今ー」

10 月 10 日（土）～12 月 13 日（日）

地球環境の過去を紐解き、現在を見つめ、未来を予測する覗き窓、南極。70 年前、その窓に迫ろうと 5 人の立山ガイドが第一次南極地域観測隊員として尽力した。彼らがこじ開けた窓は、いま何を捉えているのか。一次隊の貴重な資料とともに最新の極地研究の一端を紹介。

⑥ 写真展「素晴らしい自然を」

1 月 9 日（土）～2 月 7 日（日）

日頃から自然に接している自然解説員が感じた自然の素晴らしさや大切さを表現した写真を紹介。

⑦ 火山博ネットワーク巡回特別展「昭和新山の物語ー三松正夫から三松三朗へー」

2 月 13 日（土）～4 月 4 日（日）

全国火山系博物館連携協議会の生みの親で住民と学者、行政を横断的に結び付け、火山との共生に努めた三松正夫記念館館長、三松三朗氏の功績を偲ぶ。

⑧ 公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラー大地と人の記憶ー」

2 月 27 日（土）～4 月 4 日（日）

立山や立山カルデラ、常願寺川の大地や人の営みをテーマにした作品を紹介。

(3) サテライト展示

富山県防災・危機管理センター 1 階展示スペースで、立山カルデラの歴史及び砂防等を展示・紹介する。

### 3 立山カルデラ砂防体験学習会

博物館の野外ゾーンである立山カルデラを実際に訪れて、立山カルデラの自然や歴史、砂防事業について体験しながら理解を深めてもらう体験学習会を、国土交通省立山砂防事務所との協力を得て実施する。

なお、令和 6 年 1 月に発生した能登半島地震の影響により立山砂防工事専用軌道をトロッコに乗用して行くトロッココースは引き続き中止となったが、訓練軌道でトロッコの乗車を体験してからカルデラへ行く砂防専門コースを新設した。

また、富山地方鉄道立山線の利用促進を支援するため、富山駅から貸切列車に乗って立

山駅まで来るコースも一部設けた。

- (1) 実施時期 7月～10月
- (2) バスコース実施回数
  - ① (新)砂防専門コース 4回 ※訓練軌道の乗車体験含む
  - ② 立山カルデラコース 5回 ※一部の実施において地鉄利用
  - ③ 立山温泉跡コース 5回 ※一部の実施において地鉄利用
  - ④ 黎明期コース 2回
- (3) 解説員 富山県砂防ボランティア協会、立山・神通砂防ボランティア協会、博物館友の会解説部会

#### 4 立山砂防の世界文化遺産登録に向けての情報発信

- (1) 富山県防災危機管理センターでのサテライト展示
- (2) 外国人への情報発信の充実  
(大型映像の英語・中国語対応、2F常設展示の英語・中国語・韓国語対応)
- (3) 映像ホールにて、「タイムトラベル 常願寺川～川が語りかけるもの～」を上映
- (4) 「立山・黒部 世界遺産に向けて」をエントランスホールにおいて常時放映
- (5) 2階に砂防常設展示コーナーを設けて、常願寺川砂防施設群について常時紹介
- (6) 「『立山・黒部』を誇りとし世界に発信する県民の会」との連携による講演会等の実施
- (7) 常願寺川流域全体の世界的に見ても特色ある自然・歴史・砂防の事象について、博物館の視点から総合的に解説した冊子を製作・販売
- (8) 世界遺産関連書籍等の委託販売（日本固有の防災遺産等）
- (9) 立山カルデラや砂防を解説した「立山カルデラたんけんブック」を小中学生に配付
- (10) (新)世界遺産登録推進関連事業のための特定費用準備資金（H30～R7 積立額5,000千円）を取り崩し、ホームページリニューアル、展示改修等実施

#### 5 普及事業

- (1) 学校行事における児童生徒の利用促進  
飛越大地震やその影響による常願寺川流域における土砂災害を克服してきた先人達の努力・砂防事業等を児童生徒に学んでもらうため、総合学習等による博物館への来館を積極的に勧誘する。  
学芸員等が来館のニーズに応じたきめの細かいガイダンスを行うとともに、学校関係者の来館に際して館情報を入手しやすくするためホームページに専用ページを設ける。  
また、児童生徒の興味・関心を高めるため、小中学生向けの館内案内パンフレットを設置・配布し、館内に「子ども図書コーナー」を設ける。
- (2) 解説ボランティアの配置（友の会解説部会との連携）  
博物館の展示について、来館者により理解を深めてもらうため、繁忙期の土・日・祝

日は、解説ボランティアが館内の展示等に対する説明を行う。

### (3) フィールドウォッチング

- ① 春の立山・雪の大谷 5月6日(水・祝)  
「雪の壁」を実際に訪れ、世界的な雪の量を体感しそこに秘められた情報を探る。
- ② 弥陀ヶ原台地と称名滝展望 6月7日(日)  
立山の火山と常願寺川が10万年かけて創造した景観の謎について紐解く。
- ③ 立山の氷河眺望 8月22日(土)  
雄山の登山道をたどりながら氷河地形をめぐり、日本で初めて発見された氷河を眺望。
- ④ 室堂山とカルデラ展望 9月6日(日)  
室堂山への登山道をたどりながら、立山の生い立ちや大地の変遷について観察。
- ⑤ (新) 秋深まる天狗平・弥陀ヶ原 9月27日(日)  
秋の高原を散策し、標高や地形、気候の違いが生み出す植物のくらしを観察。
- ⑥ 有峰の断層と大地のかたちを探る 10月17日(土)  
有峰湖周辺の森を散策しながら地形と地質を観察し、その地史の一端に触れる。
- ⑦ 立山の雪を体験しよう 1月30日(土)  
雪結晶づくり・積雪観察・スノーシューハイク等々、まるまる一日「雪」を堪能。

### (4) 特別講座

- ① 国立極地研究所連携「南極昭和基地ライブトーク2026」 4月25日(土)  
南極・昭和基地と全国の科学館・博物館をオンラインでつなぐイベントを開催。
- ② 立山カルデラ砂防博物館(野外)講座  
閑散期である1~2月に学芸員等が立山地域の自然等について話題提供する。
- ③ (新) ワークショップ「オリジナルトートバッグをつくろう！」  
閑散期である1~3月に開催する写真展等の関連イベントとして、立山にくらす動物や自然について楽しみながら学ぶワークショップを開催。

### (5) 移動博物館

- ① 県民生涯学習カレッジ連携講座の開催
- ② 市民大学講座、地域公民館等との連携  
市民大学や地域公民館等に学芸員が講師として出向き、「立山の雪氷」、「立山火山」、「地震と活断層」、「立山地域の動物」などの専門的な解説を実施する。
- ③ 立山砂防事務所との連携  
児童・生徒を対象とした立山砂防探検隊、SABO体験楽校等への協力
- ④ 富山県砂防課との連携(土砂災害防止月間イベント)  
子ども砂防教室(6月上旬~下旬)等の実施
- ⑤ 地元との連携  
立山夏山開き「立山・称名滝の祭典」(7月、立山町)への参加、「千寿ヶ原フェス」

(秋、千寿ヶ原自治会) への参加 等

- (6) サイエンスショーの開催 7月25日(土)、7月26日(日)
- (7) 「博物館だより」等の発行  
博物館だより(年2回)、イベントガイド(年1回)、イベントニュース(毎月)などを発行し、県内全ての教育機関、マスコミ、旅行業者等へ配付
- (8) 博物館学芸員実習、教職員研修、14歳の挑戦事業等の受入れ
- (9) 公式ソーシャルネットワーキングサービス  
Facebook、Instagram等を更新し、幅広い世代へ細かな情報発信を行う。
- (10) 関係団体との協力
- ① 立山砂防女性サロンの会と連携し、「かたりべ絵本」の読み聞かせ会を開催するとともに、映像ホールで読み聞かせ動画の上映並びにホームページで動画を配信する。
  - ② 同じ立山をテーマとした3つの県立博物館(立山博物館、立山カルデラ砂防博物館、立山自然保護センター)が連携して、3館めぐりを楽しむスタンプラリーを実施する。

## 6 調査研究・資料収集

- (1) 立山、立山カルデラの火山活動についての調査  
火山活動が活発化している地獄谷や新湯について、継続モニタリング調査を実施し、近年の活動状況を明らかにする。また、火山活動がもたらす災害を防止する基礎情報とし、普及活動に資する。  
《現状》立山・地獄谷では、噴気温泉温度の継続観測、ドローンによる地表温度分布観測を実施し、経年変化や噴気場所の変化について継続的に調査した。また、パネルやパンフレットで、火山災害と防止策について立山を訪れる登山者、観光客へ啓蒙普及した。立山カルデラ・新湯では、干満と水温変化を継続観測して、引き続き間欠泉となっていることを確認した。  
《R8》地獄谷、新湯とも変化が激しい状態が続いていることから、継続してモニタリング調査を実施する。また、火山災害についての普及活動に資する資料作成や展示事業を実施する。
- (2) 歴史的治水砂防史料(立山砂防所蔵資料、高田雪太郎史料、蒲孚史料等)の調査  
立山砂防事務所で所蔵されている砂防資料(文献、図面、写真等)の確認分析調査を実施し、立山砂防の歴史について新しい知見を得る。寄贈された高田史料の解読を継続し、明治期の富山県の治水砂防について新たな知見を得る。また、新たに発見された蒲孚史料の解読を行い、昭和初期の近代砂防の歴史について新たな知見を得る。  
《現状》立山砂防所蔵資料の確認調査を行い、リストを作成した。高田資料のデジタル化作業が完成した。また、日記の分析を進め、デ・レイケの立山カルデラ視察の詳細

や当時の土木工事の進捗状況が明らかになった。蒲葺史料の解読を進めた。

《R 8》所蔵品についての解析作業を進める。発掘された新たな砂防資料のデジタル化、アーカイブ化を完成させる。また、史料の解読を継続するとともに、県営砂防に関する貴重な図面資料の読み取りを進め、展示や世界遺産登録に向けての資料として活用する。

### (3) 立山連峰における氷河調査

発見された氷河の特性や形成維持過程を解明し、日本の氷河の特徴や温暖化等の気候変動に対する応答特性を明らかにする。また、世界的に特徴のある立山の雪氷についてその実態を明らかにする。

《現状》御前沢氷河、三ノ窓氷河、小窓氷河等で、ドローンや航空機による測量を実施して、各氷河の変動傾向を継続観測した。また、登山道としても利用されている剣沢雪渓について、その変動傾向を明らかにした。そのほか、三ノ窓氷河で行ったボーリング調査の結果を学会誌へ報告した。

《R 8》温暖化の進行の中で立山の氷河群がどのように変動しているのかを探るため、各氷河および剣沢雪渓等の変動傾向を、ドローンや航空機による測量により継続観測する。また、氷体の物理特性や氷化過程に関する調査を継続し、日本の氷河の特性を明らかにする。

### (4) 立山・立山カルデラにおける動物の生息・生態調査

立山地域に多く生息するツキノワグマの生態調査を実施する。また、近年生息数が増加しているニホンジカやイノシシについて、その実態を明らかにする。さらに、一般や工事関係者の動物遭遇事故防止の一助とする。

《現状》R 7はツキノワグマの異常出没が発生したため、立山山岳地域・山麓地域での出没状況、痕跡についての追跡調査を実施した。また、クマに遭遇したときの対策について、新聞・テレビ・雑誌等を通して広く普及した。さらに、立山砂防事務所・北陸電力等からクマやスズメバチ等に関する情報を得て、工事関係者へ対策についてアドバイスした。

《R 8》ツキノワグマの異常出没が引き続き懸念されるため、痕跡確認や直接観察等によるツキノワグマの生態調査を継続実施し、立山・立山カルデラ・立山山麓での生態を明らかにして、危険防止対策に供する。また、気候変動に伴い県内や高山帯に進出している種（ニホンジカ、イノシシ等）の生息調査を継続実施する。

### (5) 立山カルデラにおける植生調査

未調査地域の全ての植物をリストアップし植物相を明らかにする。また、航空写真等を収集して立山カルデラの植生の遷移をモニタリングする。

《現状》カルデラ内の植生遷移を確認するため、航空写真資料の収集解析を継続して実施した。また、見学会や展示で研究成果を広く普及した。

《R 8》引き続き未調査地域の植物相を明らかにするとともに、植生の遷移についての情報を収集する。特にカルデラ奥地の調査について、ドローン等を活用して実施する。また、収集した航空写真等を解析し、植生の変遷、砂防工事の進捗による植生復元についての基礎情報とする。

### (6) 立山山岳地域における降水量、積雪量調査

未解明点の多い立山・立山カルデラ地域の積雪量を明らかにし、また近年の気候変動に対する応答特性を長期モニタリング調査により解明する。さらに、山岳地域での短時間豪雨の実態を明らかにするため、高い標高での降水量（雨量）観測を継続実施する。《現状》高山地域の積雪量、冬期降水量を継続測定した結果、冬期降水量は平均で3000mmを超える世界的な量であることが判明した。高山地域の雨量については、室堂でモニタリング観測を継続した。これらの成果は、TKKと連携して、「雪の大谷フェスティバル」の展示物等として提供した。また、富山県道路公社等と連携して、雪の大谷周辺の積雪雪崩調査を継続して、雪の壁の雪崩対策に供した。

《R8》データ空白部であり変動が大きい高山地域での降水量モニタリングの観測点を標高ごとに増やして継続的に観測し、立山の標高別降水量の平年値を算出する。また、変動の激しい積雪量について、標高ごとの変動観測を継続実施する。これらの結果をまとめて、立山の降水量、積雪量が世界的な値であることをさらに実証し、世界遺産登録へ向けての基礎資料とする。また、山岳地帯での遭難防止のため、立山地域の雪崩についての調査研究を実施する。これらの成果は、富山県立山雪崩情報（HP）の基礎データとして活用し、山岳遭難防止に資する。

#### (7) ドローンを使用した砂防施設や自然景観の動画・写真資料収集調査

立山・立山カルデラの積雪・氷河や植生、崩壊地形、砂防施設をドローンで撮影し、映像記録を残すとともに、撮影画像から3Dモデルを作成し、立山・立山カルデラで起こっている変化を明らかにする。

《現状》発見された氷河や立山カルデラ内の砂防施設のドローン撮影を実施し、展示や普及活動に利活用した。

《R8》行くことが困難な立山カルデラ奥地の景観を系統的にドローン撮影して、博物館の展示や普及活動に供する。また、新たにドローン搭載のレーザーキャナーによる調査を実施し、立山地域の積雪の広域分布等を明らかにする。

## 7 外国人対応等入館者数増加対策

- (1) 入館料等のキャッシュレス対応
- (2) 立山駅構内での施設案内看板の設置及びロータリーに誘導サインを設置
- (3) 大型映像の英語、中国語通訳レシーバー貸出
- (4) 大型映像の字幕表示
- (5) 2F常設展示の英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語解説タブレットの貸出
- (6) GW期間等繁忙期に解説ボランティアを配置（友の会解説部会との連携）

## 8 博物館友の会

- (1) 会員参加行事の充実（立山カルデラ砂防体験学習会、類似施設見学会 等）
- (2) 解説部会活動の充実（繁忙期の館内解説、研修会 等）
- (3) 会報誌の発行
- (4) 博物館周辺のにぎわい創出（千寿ヶ原ぶらさんぽ 等）